

マルチフェーズ型研究教育による分析技術者人材育成と 廃炉措置を支援加速する難分析核種の即応的計測法の 実用化に関する研究開発

1. 課題目標

東京電力福島第一原子力発電所の廃炉措置等にかかわる分析技術者ならびに廃炉支援者養成を目指すために、多機関による学生の技術教育の実施と福島大学による実務層(幅広い年齢層)への実践教育を実施する。福島大学が提案するマルチフェーズ型研究教育プログラムにより、「分析人材育成と廃炉措置等支援者のための教育」と「即応的分析技術の実用化研究」を実施する。多面的思考の養成と中長期的な持続性のある人材を育成・確保するとともに、放射性ストロンチウム(^{90}Sr)を中心とする難分析核種の分析技術的な問題を解決する。

2. 事業計画内容

(1) 基盤教育

- ① 分析技術者養成(福島大、JAEA、環境センター、福島高専、パーキンエルマー、JAMSTEC、化研)
- ② 共通教育(福島大、福島高専)
- ③ 現職専門家講習(福島大)

(2) 質量分析に関する研究

- ① ICP-MSIに関する開発(福島大、パーキンエルマー)
- ② TIMSに関する開発と人材育成(JAMSTEC、福島大)
- ③ 管理区域内でのホット実証試験(JAEA)

(3) 放射能計測に関する研究

- ① 公定法試験(環境センター、化研)
- ② 迅速化開発(環境センター)

(4) 処理技術に関する研究

- ① 前処理技術の開発(福島高専)
- ② 吸着剤の開発(化研)

(5) 研究推進

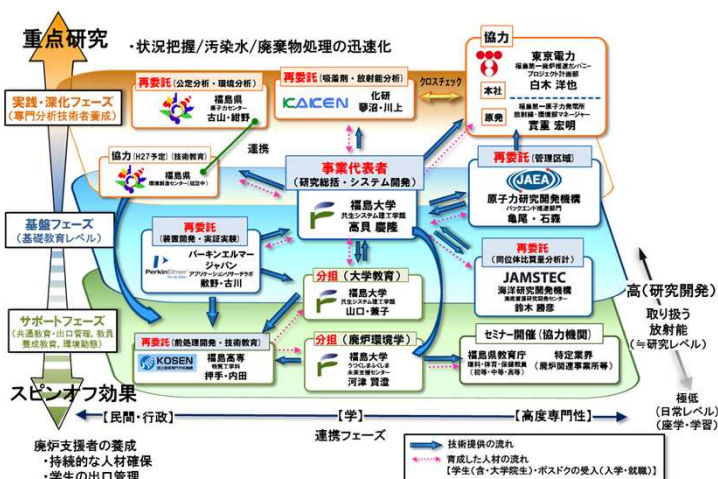
(人材育成)

人材育成(教育プログラムFS)の実施例

「仲良しの教育プログラム」のモデルケースとなるこれまでの人材育成の実施例(現在・民間企業)

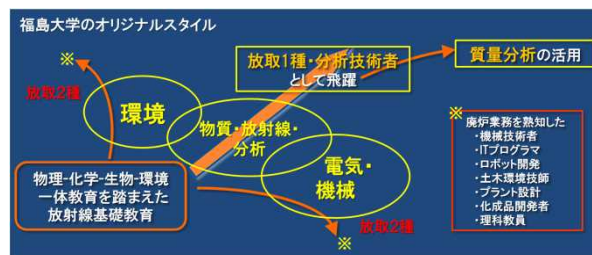


3. 事業実施体制



(事業実施計画)

	2015	2016	2017	2018	2019
(1) 基盤教育					
(2) 質量分析に関する研究					
(3) 放射能計測に関する研究					
(4) 処理技術に関する研究					
(5) 研究推進					



(研究開発) 迅速分析法と関連技術の開発

ICP-MSシステム



TIMSシステム



吸着剤システム

